

新潟県三条市

石田遺跡

市道下谷地柳場新田線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

三条市教育委員会

新潟県三条市

いし だ い せき
石 田 遺 跡

市道下谷地柳場新田線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 5

三 条 市 教 育 委 員 会

例　　言

- 1 本書は三条市須戸新田字石田1284ほかに所在する石田遺跡（道跡台帳番号:367）の調査報告書である。
 - 2 本発掘調査は市道下谷地柳場新田線道路改良事業に伴い、三条市教育委員会が主体となって実施した。
 - 3 確認調査、本発掘調査、整理作業、報告書作成・印刷に係る作業期間は以下の通りである。
- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 平成 18 年度 確認調査 | 平成 18 年 11 月 18 日 |
| 平成 19 年度 本発掘調査・整理作業 | 平成 19 年 10 月 22 日～平成 20 年 3 月 15 日 |
| 平成 20 年度 整理作業 | 平成 21 年 3 月 16 日～3 月 27 日 |
| 平成 23 年度 整理作業 | 平成 24 年 3 月 1 日～3 月 23 日 |
| 平成 24 年度 整理作業 | 平成 25 年 3 月 1 日～3 月 22 日 |
| 平成 25 年度 整理作業 | 平成 26 年 1 月 27 日～3 月 20 日 |
| 平成 26 年度 整理作業、報告書作成・印刷 | 平成 26 年 8 月 25 日～平成 27 年 3 月 31 日 |
- 4 本遺跡の出土遺物及び図面、写真などの記録類は、三条市教育委員会で保管・管理している。
 - 5 調査成果の一部は、遺跡発掘調査速報展 2007（平成 19 年 4 月 7 日～5 月 6 日）、遺跡発掘調査速報展 2008（平成 20 年 4 月 5 日～5 月 6 日）で公開しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。
 - 6 遺物の注記記号は「07!」として、その後に出土地点、層位、取り上げ番号を記入した。
 - 7 本書の図中で示す方位はすべて真北である。既成の地形図を使用したものについては原図の出典を記した。
 - 8 引用・参考文献は著者および発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括に掲載した。
 - 9 発掘作業業務を株式会社堀雅組に委託した。
 - 10 本書の執筆及び編集は宮田志保（三条市）が行った。
 - 11 遺構・遺物の各種図版作成・編集に関しては、Adobe 社 Illustrator を用いて作成した。図版の縮尺はそれぞれの図版に記した。遺物写真については、原則として遺物図版と同じ縮尺である。
 - 12 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くのご教示とご協力を賜った。記して厚く御礼申し上げる。（五十音順、敬称略）

青山　誠八　　池野　芳男　　春日　眞実　　松井　寛

新潟県教育庁文化行政課　　公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	1
A 確認調査	1
B 本発掘調査	1
C 整理作業・報告書作成	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
1 地理的環境	4
2 周辺の遺跡	4
第Ⅲ章 調査の方法	7
1 グリッドの設定	7
2 基本層序	7
第Ⅳ章 遺構と遺物	9
1 遺構	9
A 遺構の概要	9
B 各 説	9
1) 土 坑 (SK)	9
2) 溝 (SD)	9
3) ピット (P)	10
2 遺物	10
A 遺物の概要	10
B 各 説	10
1) 古代の遺物	10
2) 中世の遺物	10
第Ⅴ章 ま と め	11
1 遺構について	11
2 遺物について	11

『引用・参考文献』	11
『遺構観察表』	12
『遺物観察表』	12

挿図目次

第1図 石田遺跡確認調査トレンド位置と本発掘調査範囲図	3	第3図 石田遺跡位置図	6
第2図 石田遺跡周辺の遺跡分布図	5	第4図 グリッド設定図と基本層序	8

図版目次

[遺構・遺物図版]

図版1 調査区全体図	図版3 遺構分割図(2)
図版2 遺構分割図(1)	図版4 遺構個別図・遺物実測図
【写真図版】	
図版5 調査区全景	図版7 遺構写真(2) 土坑・溝
図版6 着手前・基本層序・遺構検出・遺構写真(1) 土坑・溝	図版8 遺構写真(3) 溝・ビット、遺物写真

第Ⅰ章 序 説

1 調査に至る経緯

市道下谷地柳場新田線は一般国道 403 号（以下、403 号）と県道新潟小須戸三条線を結ぶ幹線市道である。本線は現在整備中である 403 号三条北バイパスの接続道路として予定されており、地域経済の活性化や周辺住民の利便性向上、安全確保を目的に道路改良工事が計画された。道路改良事業は平成 17 年度から部分的に実施しており、平成 19 年度事業予定地内に周知の埋蔵文化財である石田遺跡が所在することから、新潟県教育庁文化行政課から指導を受け、三条市建設部土木課（当時、以下「土木課」）と三条市教育委員会（以下、市教委）で協議・調整を進め、平成 18 年度に事業予定地内の確認調査を実施した。石田遺跡は隣接する井栗・保内地区等で県営ほ場整備事業吉津川地区、403 号三条北バイパスの事業予定のため平成 9 年度の分布調査で発見、周知化されている。

確認調査は平成 18 年 11 月 18 日に事業予定地 250 m²を対象に行われた。その結果、遺構・遺物が検出され、良好な状態で遺跡が所在することが確認された。土木課と市教委では確認調査の結果を踏まえ石田遺跡の取り扱いの協議を行い、事業予定地 250 m²について記録保存のための本発掘調査が必要であると判断した。また道路改良事業の工程と調査スケジュールの調整を図り平成 19 年度に本発掘調査を実施することで合意を得た。

平成 19 年 7 月 24 日付三土 819 号で三条市長から県教育委員会教育長宛に文化財保護法第 94 条第 1 項に基づき「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出され、平成 19 年 10 月 9 日付け三教生 806 号で文化財保護法 99 条の規定に基づき発掘調査着手の報告を新潟県教育委員会教育長に提出し、現地発掘調査を実施した。

2 調査経過

A 確認調査

確認調査は平成 18 年 11 月 18 日に実施した。事業予定地の中央部分に排水路があり調査時も水流があったため、排水路脇の土手状の部分に 1 × 2 m のトレンチを 3 箇所設定した。バックホウ及び人力で地表下約 1.5 m まで掘削し、遺構・遺物の有無、土層堆積状況や検出遺構等の観察作業を行った。調査面積は 6 m²である。調査の結果、T1 からピット 2 基、T2 から溝 1 条、須恵器が検出され、事業予定地について本発掘調査が必要と判断した。

B 本発掘調査

調査期間：平成 19 年 10 月 22 日～10 月 31 日

調査面積：約 188 m²

本発掘調査の準備工は平成 19 年 10 月 1 日から開始した。仮設施設の設置、調査区の測量等準備作業を行った。9 日から表土掘削、翌 10 日から開渠の設置を開始した。調査区のすぐ脇に市道があること、ま

2 調査経過

た工事スペースが狭小であったため、表土掘削と開渠の設置を同時に行つた。22日から作業員を投入して本格的な調査を開始した。同日遭構検出、翌日から遭構掘削を行い、合わせて遺物の取り上げ、断面の計測などの測量作業を行つた。31日に高所作業車による調査区の全景写真、遭構完掘写真を撮影し、その後平面図測量、現場撤収作業を行い、11月6日に現場作業を終了した。その後土木課に現地を引き渡した。なお、狭小で調査が出来ない箇所については、平成20年1月28日に工事立会を行つた。

平成18年度（確認調査）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 松永悦男）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市教育委員会生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	原 藤雄（生涯学習課長補佐）
指導	藤井 熊（生涯学習課副事務文化振興係長）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課担任主任）
整理作業員	木村 直美（生涯学習課臨時職員）

平成19年度（本発掘調査・整理作業）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 松永悦男）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市教育委員会生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	原 藤雄（生涯学習課長補佐）
指導	藤井 熊（生涯学習課副事務文化振興係長）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課担任主任）
調査員	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
調査補助員	高橋 稔一（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課臨時職員）

C 整理作業・報告書作成

整理作業は平成19～20年、23～26年に実施した。出土遺物の洗浄・注記・接合、現場写真整理、遭構実測図修正・トレース、遺物実測・拓本・トレース、遭構カード作成などを行つた。報告書作成は平成26年12月から着手した。遭構・遺物図版作成、写真図版作成・報告書執筆・編集作業を行つた。

平成20年度（整理作業）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 松永悦男）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市市民部生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	近藤 嘉美（生涯学習課長補佐）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課文化財係長）
調査員	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課臨時職員）

平成23年度（整理作業）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 松永悦男）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市市民部生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	鶴谷 駿次（生涯学習課長補佐）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課文化財係長）
調査員	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課臨時職員）

平成24年度（整理作業）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 長谷川正二）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市市民部生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	石崎紀美恵（生涯学習課長補佐）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課文化財係長）
調査員	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課嘱託員）

平成25年度（整理作業）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 長谷川正二）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市市民部生涯学習課
管理	金子 正典（生涯学習課長）
管理補佐	金子 成郎（生涯学習課長補佐）
調査担当	田村 浩司（生涯学習課文化財係長）
調査員	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課嘱託員）

平成26年度（整理作業・報告書作成）

調査主体	三条市教育委員会（教育長 長谷川正二）
調査指導	新潟県教育厅文化行政課
事務局	三条市市民部生涯学習課
管理	長谷川 健次（生涯学習課長）
管理補佐	金子 成郎（生涯学習課長補佐）
指導	田村 浩司（生涯学習課文化財係長）
調査担当	宮田 志保（生涯学習課嘱託員）
整理作業員	荒岡美紀（生涯学習課嘱託員）



第1図 石田遺跡確認調査トレングチ位置と本発掘調査範囲図

第II章 遺跡の環境

1 地理的環境

石田遺跡が所在する三条市は新潟県のほぼ中央部に位置し、信濃川右岸の新潟平野の南東部に立地している。市域を南北に分断し貫流する五十嵐川は、福島県の県境から下田丘陵を横切り、新潟県を代表する大河である信濃川に合流する。

新潟平野は信濃川やその支流などの河川の堆積作用により形成された沖積低地である。また信濃川と五十嵐川合流点付近は、扇状地河川と三角州河川の間に形成される移化帶河川地城の最上流部に当たる。三条市より下流の新潟平野においてはかつての信濃川や支流の乱流を物語る自然堤防が広く分布し、そこに立地する集落が細長く連なっている。

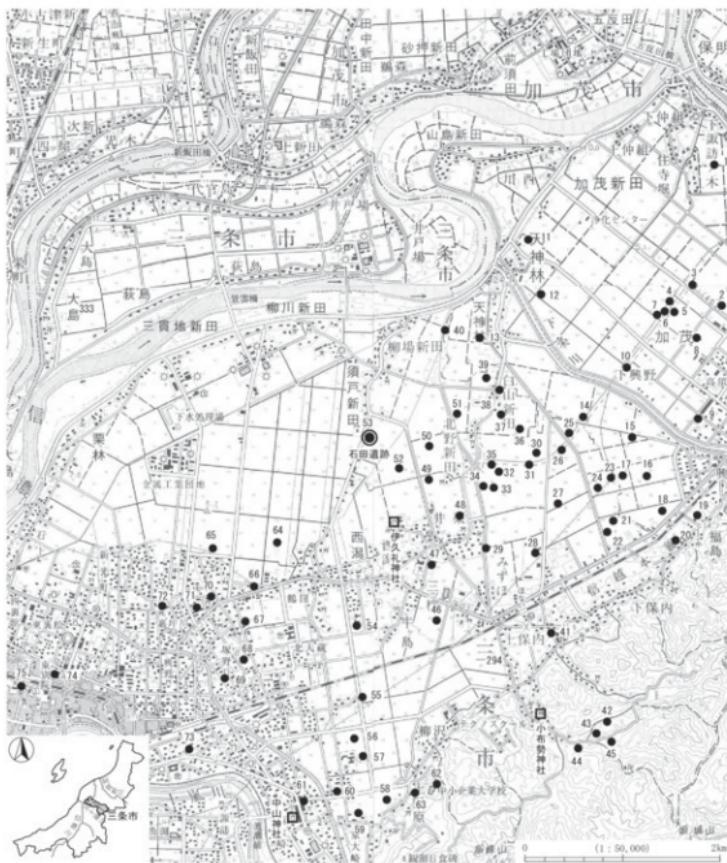
遺跡の周辺地域では、東山丘陵の谷口の西大崎から北入戸、塚野目、鶴田・敷田～須戸新田・柳原新田、牛ヶ島から三柳～北野新田・白山新田と北へ延びる3つの自然堤防が発達している。現在本城の西側で信濃川と合流する五十嵐川は、正保二年（1645）の『正保越後国絵図』をみると現在の流路だけではなく、西大崎から分岐して、北入戸と下坂井の間を流れ、加茂市で信濃川と合流する流路が描かれていることから市域を北流する流路であったとされる。

今回の事業予定地は現在の須戸新田集落の端部分であり、標高5.5mの自然堤防上にあたるものと考えられる。また、牛ヶ島、井栗、三柳などの集落は五十嵐川の旧河道によって形成された自然堤防であった可能性が指摘されている。

2 周辺の遺跡

石田遺跡周辺には縄文時代から中世まで数多くの遺跡が分布する。弥生時代以降、遺跡の多くは五十嵐川上・中流域に形成された河岸段丘面から生業に適した信濃川右岸の沖積面に進出する。本地域は東山丘陵から流れ出る中小河川の水戸川、西川、布施谷川などや五十嵐川の旧流路の一つと考えられる河川などによって形成された沖積低地の中に、それらの河川の自然堤防である微高地があり、その上に遺跡が多く所在している。また遺跡北東部の東山丘陵先端部の尾根筋には保内三王山古墳群があり、前期古墳3基、後期群集墳14基が確認されている。

律令制度により郡が設置されると本地域は蒲原郡に属し、平安時代に編纂された『和名類聚抄』によると越後国には33郷おかげ、蒲原郡には「日置、桜井、勇礼、青海、小伏」の5郷が記されている。また同じく平安時代に編纂された『延喜式神名帳』には蒲原郡内に所在する12社が記されており、そのうち井栗地内に伊久礼神社を、荒町及び月岡地内に櫛田神社、上保内地区に小布施神社、西大崎地内に中山神社、飯田地内に五十嵐神社を比定する神社が存在している。これらの式内社の所在や現在に残る地名の対比などから勇礼郷は三条市井栗地内に、小伏郷が三条市保内地内、青海郷が加茂市付近に比定されている。石田遺跡は勇礼郷に属したものと推測される。また聖田永年私財法の制定で発生した初期莊園は『西大寺資財流記帳』の「蒲原郡櫛田莊」は延喜式内社櫛田神社が三条市内に所在していることを根拠に三条市付近に比定されている。



No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	日吉山遺跡	古代	20	御内山遺跡	縄文・古墳	38	御内山遺跡	古代・中期	56	御内山遺跡	古代・中期
2	日吉山遺跡	古墳・古墳	21	御内山遺跡	古墳	39	御内山遺跡	古墳・中期	57	御内山遺跡	古墳・中期
3	御内山遺跡	古墳	40	御内山遺跡	古墳	41	御内山遺跡	古墳・古墳・古墳	58	御内山遺跡	古墳
4	御内山遺跡	古墳	42	御内山遺跡	古墳	43	御内山遺跡	古墳	59	御内山遺跡	古墳
5	御内山遺跡	古墳	44	御内山遺跡	古墳	60	御内山遺跡	古墳	60	御内山遺跡	古墳
6	御内山遺跡	古墳・中世	45	御内山遺跡	古墳	61	御内山遺跡	古墳	61	御内山遺跡	古墳
7	御内山遺跡	古墳	46	御内山遺跡	古墳	62	御内山遺跡	古墳	62	御内山遺跡	古墳
8	御内山遺跡	古墳・中世	47	御内山遺跡	古墳	63	御内山遺跡	古墳	63	御内山遺跡	古墳
9	御内山遺跡	古墳	48	御内山遺跡	古墳	64	御内山遺跡	古墳	64	御内山遺跡	古墳
10	御内山遺跡	古墳	49	御内山遺跡	古墳	65	御内山遺跡	古墳	65	御内山遺跡	古墳
11	御内山遺跡	古墳	50	御内山遺跡	古墳	66	御内山遺跡	古墳	66	御内山遺跡	古墳
12	御内山遺跡	古墳	51	御内山遺跡	古墳	67	御内山遺跡	古墳	67	御内山遺跡	古墳
13	御内山遺跡	古墳	52	御内山遺跡	古墳	68	御内山遺跡	古墳	68	御内山遺跡	古墳
14	御内山遺跡	古墳	53	御内山遺跡	古墳	69	御内山遺跡	古墳	69	御内山遺跡	古墳
15	御内山遺跡	古墳	54	御内山遺跡	古墳	70	御内山遺跡	古墳	70	御内山遺跡	古墳
16	御内山遺跡	古墳	55	御内山遺跡	古墳	71	御内山遺跡	古墳	71	御内山遺跡	古墳
17	御内山遺跡	古墳	56	御内山遺跡	古墳	72	御内山遺跡	古墳	72	御内山遺跡	古墳
18	御内山遺跡	古墳	57	御内山遺跡	古墳	73	御内山遺跡	古墳	73	御内山遺跡	古墳
19	御内山遺跡	古墳	58	御内山遺跡	古墳	74	御内山遺跡	古墳	74	御内山遺跡	古墳
20	御内山遺跡	古墳	59	御内山遺跡	古墳	75	御内山遺跡	古墳	75	御内山遺跡	古墳
21	御内山遺跡	古墳	60	御内山遺跡	古墳	76	御内山遺跡	古墳	76	御内山遺跡	古墳
22	御内山遺跡	古墳	61	御内山遺跡	古墳	77	御内山遺跡	古墳	77	御内山遺跡	古墳
23	御内山遺跡	古墳	62	御内山遺跡	古墳	78	御内山遺跡	古墳	78	御内山遺跡	古墳
24	御内山遺跡	古墳	63	御内山遺跡	古墳	79	御内山遺跡	古墳	79	御内山遺跡	古墳
25	御内山遺跡	古墳	64	御内山遺跡	古墳	80	御内山遺跡	古墳	80	御内山遺跡	古墳
26	御内山遺跡	古墳	65	御内山遺跡	古墳	81	御内山遺跡	古墳	81	御内山遺跡	古墳
27	御内山遺跡	古墳	66	御内山遺跡	古墳	82	御内山遺跡	古墳	82	御内山遺跡	古墳
28	御内山遺跡	古墳	67	御内山遺跡	古墳	83	御内山遺跡	古墳	83	御内山遺跡	古墳
29	御内山遺跡	古墳	68	御内山遺跡	古墳	84	御内山遺跡	古墳	84	御内山遺跡	古墳
30	御内山遺跡	古墳	69	御内山遺跡	古墳	85	御内山遺跡	古墳	85	御内山遺跡	古墳
31	御内山遺跡	古墳	70	御内山遺跡	古墳	86	御内山遺跡	古墳	86	御内山遺跡	古墳
32	御内山遺跡	古墳	71	御内山遺跡	古墳	87	御内山遺跡	古墳	87	御内山遺跡	古墳
33	御内山遺跡	古墳	72	御内山遺跡	古墳	88	御内山遺跡	古墳	88	御内山遺跡	古墳
34	御内山遺跡	古墳	73	御内山遺跡	古墳	89	御内山遺跡	古墳	89	御内山遺跡	古墳
35	御内山遺跡	古墳	74	御内山遺跡	古墳	90	御内山遺跡	古墳	90	御内山遺跡	古墳
36	御内山遺跡	古墳	75	御内山遺跡	古墳	91	御内山遺跡	古墳	91	御内山遺跡	古墳
37	御内山遺跡	古墳	76	御内山遺跡	古墳	92	御内山遺跡	古墳	92	御内山遺跡	古墳
38	御内山遺跡	古墳	77	御内山遺跡	古墳	93	御内山遺跡	古墳	93	御内山遺跡	古墳
39	御内山遺跡	古墳	78	御内山遺跡	古墳	94	御内山遺跡	古墳	94	御内山遺跡	古墳
40	御内山遺跡	古墳	79	御内山遺跡	古墳	95	御内山遺跡	古墳	95	御内山遺跡	古墳
41	御内山遺跡	古墳	80	御内山遺跡	古墳	96	御内山遺跡	古墳	96	御内山遺跡	古墳
42	御内山遺跡	古墳	81	御内山遺跡	古墳	97	御内山遺跡	古墳	97	御内山遺跡	古墳
43	御内山遺跡	古墳	82	御内山遺跡	古墳	98	御内山遺跡	古墳	98	御内山遺跡	古墳
44	御内山遺跡	古墳	83	御内山遺跡	古墳	99	御内山遺跡	古墳	99	御内山遺跡	古墳
45	御内山遺跡	古墳	84	御内山遺跡	古墳	100	御内山遺跡	古墳	100	御内山遺跡	古墳
46	御内山遺跡	古墳	85	御内山遺跡	古墳						
47	御内山遺跡	古墳	86	御内山遺跡	古墳						
48	御内山遺跡	古墳	87	御内山遺跡	古墳						
49	御内山遺跡	古墳	88	御内山遺跡	古墳						
50	御内山遺跡	古墳	89	御内山遺跡	古墳						
51	御内山遺跡	古墳	90	御内山遺跡	古墳						
52	御内山遺跡	古墳	91	御内山遺跡	古墳						
53	御内山遺跡	古墳	92	御内山遺跡	古墳						
54	御内山遺跡	古墳	93	御内山遺跡	古墳						
55	御内山遺跡	古墳	94	御内山遺跡	古墳						
56	御内山遺跡	古墳	95	御内山遺跡	古墳						
57	御内山遺跡	古墳	96	御内山遺跡	古墳						
58	御内山遺跡	古墳	97	御内山遺跡	古墳						
59	御内山遺跡	古墳	98	御内山遺跡	古墳						
60	御内山遺跡	古墳	99	御内山遺跡	古墳						
61	御内山遺跡	古墳	100	御内山遺跡	古墳						

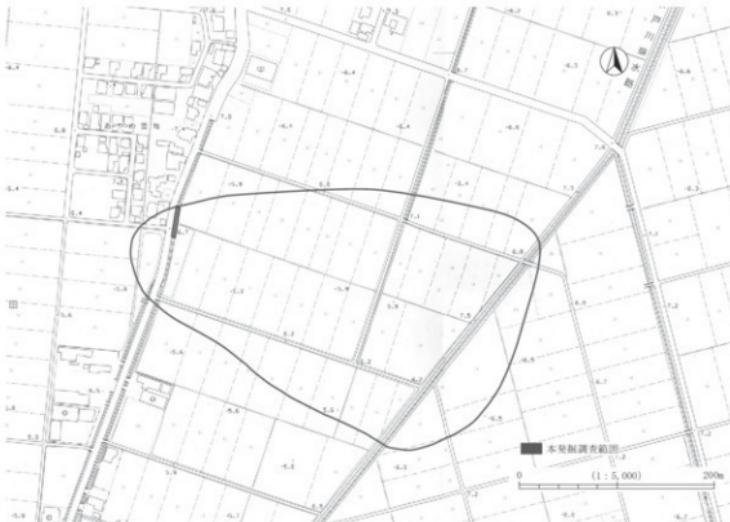
第2図 石田遺跡周辺の遺跡分布図

周辺地域における古代の遺跡は8世紀後半から9世紀代の遺跡が最も多いが、井栗乙郷遺跡では7世紀末から8世紀初頭のかえりの持つ須恵器杯蓋が確認されており、当地の開発の古さが伺える。

また近年403号三条北バイパス工事、県営は場整備事業吉津川地区に伴う発掘調査が行われ、周辺地域の様相が少しづつ明らかにされている。新田川遺跡では奈良時代の雨落溝を伴う掘立柱建物、井戸、竪状遺構が検出され宅地の景観を著している。また漆紗冠と考えられる漆製品が出土した〔田村・長沼ほか2008a〕。藤ノ木遺跡では3間×3間の純柱建物が1棟検出された。40cm前後の太い柱の地下には、筏地業と呼ばれる部材を交互に組み合わせた沈下防止策が施され、倉跡と考えられる〔田村・長沼ほか2008b〕。吉津川遺跡では過去に縄袖陶器が出土しているが、2006年度の発掘調査で、3間×5間の大型掘立柱建物や井戸、竪状遺構が検出されている。遺構は現在の吉津川沿いに密集しており、東側に向かって地形が下がっていることが伺えた。また同年加茂市境に所在する安曲遺跡では古代の木棺墓が検出された。隣接する加茂市馬越遺跡でも木棺墓が検出されており、木棺の形、規模が類似する点について注目される〔伊藤2005〕。坪ノ尾遺跡では10世紀前半の有力者の屋敷跡が検出されており、縄袖陶器や灰釉陶器が出土している。また、石田遺跡の南側では合屋遺跡が所在しており、10世紀前半の礎板をもつ大型の掘立柱建物が検出された。縄袖陶器や灰釉陶器、石製の丸瓶が出土していることから有力者の屋敷跡と考えられる。

中世の遺跡では、藤ノ木遺跡でコの字状の区画溝を伴う屋敷地が確認され、また隣接する割前遺跡や西吉津川遺跡でも区画溝を伴う屋敷地が確認されており、当時の様相が伺える。

このように本遺跡周辺では市内でも有数の遺跡が集中する地域であり、特に古代の遺跡が多く所在している。また勇礼郷、小伏郷と2つの郷が比定される地域でもあり、古代の開発等が活発に行われたものと考えられる。



第3図 石田遺跡位置図

第III章 調査の方法

1 グリッドの設定

グリッドは、道路沿いに細長く南北にのびる調査区に合わせ任意に設定した。道路改良工事で使用したKBM2を基準として、市道下谷地柳場線に沿った軸線を南北方向とし、それに直交する軸線を東西方向とした。グリッドの方位は南北基準線が真北から10度18分11秒西偏している。

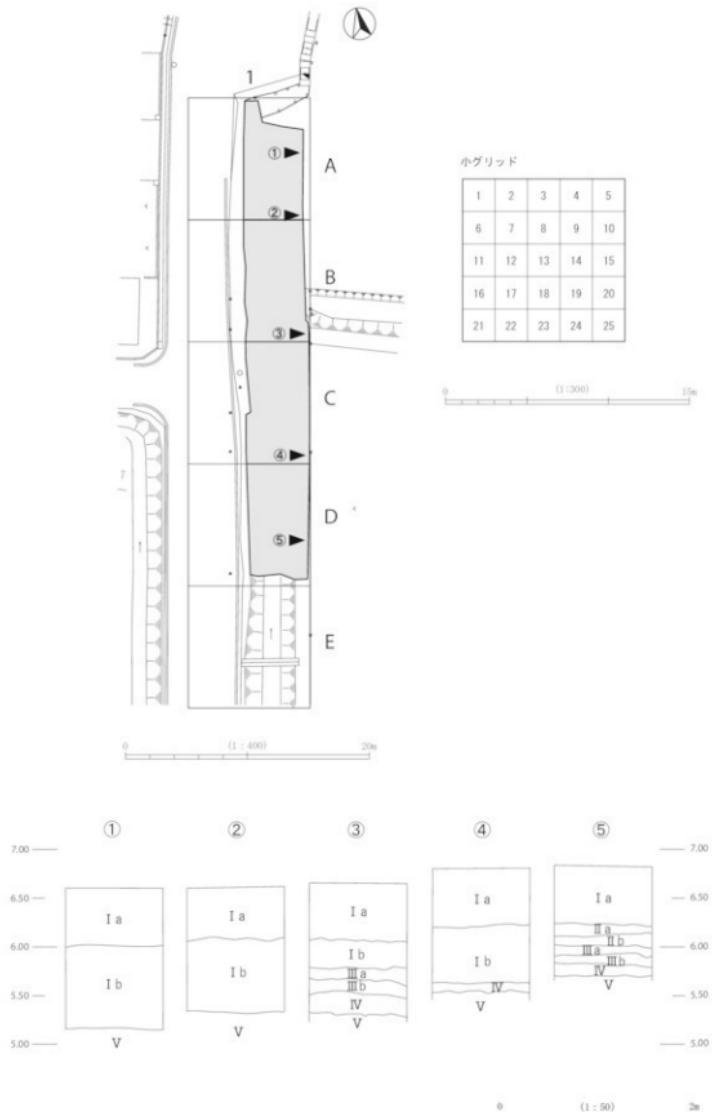
調査では大・小グリッドを使用し、大グリッドは10m方眼を組み、大グリッドを2m四方に25分割したものを小グリッドとした。大グリッドの呼称は南北方向を北からアルファベット、東西方向は算用数字を用いて、両者を組み合わせて「IA」のように表した。小グリッドは1～25の算用数字で表し、北西隅を1、東へ2・3・4・5、南へ6・11・16・21の順で、南東隅を25となるように番号を付し、名称は大グリッドの後につけて「IA-8」のように表した。

2 基本層序

調査区は現在の須戸新田の端部分に位置し、北北西にのびる旧河道の自然堤防上に位置する。調査区の標高は約6.7mであり、南側は標高が高く、北側に向かってだんだんと低くなっている。比高差は20cmである。本調査前の調査区の現況は調査区中を土排水路が流れおり、東側の一部は畑作であった。そのため調査区全体に盛土されている。基本層序は畑作側である東壁を5箇所調査・記録した。遺構確認面であるV層の標高は約5.5mである。土層の観察は『新版標準土色帖』『農林水産省水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所2004年版』を使用した。

I層は盛土であり、盛土の色調及び土質の違いにより、2層に細分した。調査区北側では遺構確認面まで盛土されており、調査区南側では盛土が約60cm堆積している。II～III層は灰色を基調とした土層であり、色調の違い含有物の違いで分層を行った。IV層は黒褐色粘質土、V層は暗オリーブ灰色シルトであり、遺構確認面である。

- I a にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性やや強 しまりやや強 下部に粗砂含む。
- I b 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強 黒色土、灰色土 (1.0～10cm) ブロック状に少量含む。
- II a 暗オリーブ灰色粘質土 (5GY3/1) 粘性やや強 しまりやや強 炭化物 (0.2cm) 微量含む。
- II b 灰色粘質土 (7.5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強 黒色土 (0.5～2.0cm) ブロック状に少量含む。
- III a 灰色粘質土 (N/A) 粘性やや強 しまりやや強 炭化物 (0.2cm) 微量含む。
- III b 揭灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性やや強 しまりやや強 白色粒 (0.5cm) 少量含む。炭化物 (0.5cm) 微量含む。
- IV 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性やや強 しまりやや強 青灰色土 (0.5cm) ブロック状に少量含む。炭化物 (0.5～1.0cm) 微量含む。
- V 暗オリーブ灰色シルト (5GY3/1) 粘性やや弱 しまりやや強 黒褐色土 (1.0cm) ブロック状に少量含む。炭化物 (0.5cm) 微量含む。遺構確認面



第4図 グリッド設定図と基本層序

第IV章 遺構と遺物

1 遺構

A 遺構の概要

本調査区の遺構確認面はV層上面である。現況からの遺構確認面までの深さは約1.3mである。遺構確認面の標高は約5.5mであり、調査区北側に向かって高くなっている。

検出された遺構は、土坑3基、溝跡11条、ピット3基である。遺構は発掘調査段階で種別ごとに略号をつけ、その後検出した順に通し番号をつけた。遺構略号は土坑：SK、溝：SD、ピット：Pである。本文及び観察表を記述するにあたり、遺構の平面、断面形態の分類は〔荒川ほか2004〕を参考にした。

B 各 説

1) 土 坑 (図版2~4、6、7)

SK1 1B~4グリッドに位置する。平面形は椿円形を呈し断面形は台形状である。埋土は3層に分けられる。1層は黒褐色粘性土、2~3層は灰色を基調とした粘質土であり、1~2層は炭化物が微量含まれる。埋土の堆積状況はレンズ状である。遺物は出土していない。

SK2 1D~4グリッドに位置する。平面形は椿円形を呈し断面形は弧状である。SD2、4を切っており、遺構埋土は1層である。遺物は出土していない。

2) 溝 (図版2、3、6、7、8)

SD1 1B~8・13~14グリッドに位置する。東西方向に延び、遺構の両端は遺構外に広がる。埋土は2層であり、断面形は台形状である。1層は粘性の強い暗灰色粘質土であり、炭化物や青灰色土ブロックを含む。遺物は土師器が1点出土している。

SD2 1B~14・19~24、1C~4・9~14~19~24、1D~4~9~10~14~15~19~20グリッドに位置する。断面は弧状であるが、深さに起伏がある。遺構の南側では単層であるが、北側では2~3層に分層される。調査区北側でSD11、12、中央でSD7、8を切っており、SK2に切られる。SD3、SD4とほぼ平行に伸びている。遺物は須恵器が1(1)点、土師器が2点出土している。

SD3 1B~14~19~24、1C~4~9~14~19~24、1D~4~9~10~14~15~19~20グリッドに位置する。遺構の南側は調査区外に広がる。SD5と平行して北東へ延びるが、SK2から北側は北方向に延びSD1まで続く。断面は弧状で浅い溝である。遺構の埋土は単層であるが、SD7付近のみ3層に分層される。SD5、7、8、11、12を切っており、SK2に切られる。また平行して延びるSD4を切っている。遺物は出土していない。

SD4 1B~14~19~24、1C~4~5~9~10~14~15~19~24グリッドに位置する。遺構の南側の基点はSD2、3と重複しているため不明であるが、北側はSD12で東側に延びており、調査区外に広がるものと考えられる。遺構は調査区南側では西からSD3、2、4の順に平行して北側に延びているが、1C~9グリッドで遺構は東側に曲がりSD2と交差し、北側へ延びる。SD2、3、10に切られ、SD7、8を切っている。遺物は土師器が1点出土している。

SD5 1D~9~14グリッドに位置する。遺構の南側は調査区外に延びている。断面形は浅い弧状であり、SD3

と平行して延びている。SD3を切っている。遺物は須恵器が1(2)点出土している。

SD6 1D・9・10・24・25グリッドに位置する。調査区の南端で検出され、遺構の南側は調査区外に延びると考えられる。埋土は2層であるが、SD2と埋土が類似しているため、SD2と同一遺構の可能性がある。遺物は出土していない。

3) ピット (図版4、8)

P1 1C・19・20・24・25グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、断面はU字状である。埋土は単層である。遺物は出土していない。

P2 1C・4グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈し、断面はV字状である。埋土は単層である。遺物は出土していない。

2 遺 物

A 遺 物 の 概 要

遺物はコンテナ3箱分出土した。小破片の遺物が多く、図化できるものはわずかである。古代の土器は須恵器、土師器、中世の土器は土師質土器が出土した。また遺構からの出土はわずかで、SD1、2、3、4、5、10から出土している。遺物の出土層位はほとんどがIV層からの出土である。記述の順序は遺物の種別ごとに遺構から出土した遺物を先行して記述し、その後に遺構外、その他の層の順に記載した。土器の時期区分及び分類は古代の土器は春日真実氏の編年「春日1999、2005」を参考にした。

B 各 説

1) 古代の遺物 (図版4、8)

SD2 1は須恵器無台杯の底部である。胎土はC1群である。内外面ロクロナデ仕上げである。

SD5 2は須恵器無台杯の底部である。底径は7.4cmであり、やや内湾し立ち上がる。底部外面回転ヘラ切りである。

遺構外 3、4は須恵器無台杯の底部である。3は底径は7.0cmであり、やや内湾し立ち上がる。底部外面は回転ヘラ切りである。4は胎土はC1群である。底径は8.6cmであり、底部外面は回転ヘラ切りである。5は小破片のため詳細は不明だが有台杯と推定される。6は杯蓋である。胎土はC1群である。口縁端部を長く屈曲させ、断面は三角形状である。7は蓋の底部であり、高台は欠けている。8～11は土師器長甕である。8は口縁部破片であり、口縁部がやや外反するものである。9～11は体部破片である。9は体部上部の破片であり、外面にカキメが施されている。8世紀代の遺物である。10～11は体部下部の破片であり、ロクロ成形後タタキが施される。

2) 中世の遺物 (図版4、8)

遺構外 12、13は土師質土器皿の底部である。12は表面が磨耗しており調整は不明である。13の底径は7.4cmである。手づくね成形であり、口縁は外反するものと推定される。

確認調査 14は須恵器の杯蓋である。体部破片のため、口径は不明である。確認調査T2出土である。

分布調査 15は須恵器無台杯の底部である。底径は不明である。底部外面は回転ヘラ切りである。16、17は土師器であり、16は椀の口縁部、17は長甕の口縁部である。いずれも小破片であり、口径は不明である。

第V章 まとめ

1 遺構について

今回の発掘調査で最も多い遺構は溝跡である。南北方向の溝跡が5条、東西方向の溝跡は4条検出されている。南北方向の溝 SD2、3、4は溝幅などがほぼ同じであり、切り合いからSD4が古くSD2、3が新しい。遺構の規模から水路と考えられ、南側の調査区外に広がるものと推定される。東西方向の溝（SD7、8）は南北方向の溝に切られており、若干の時期差があるものと考えられる。

また今回の調査では掘立柱建物や井戸跡は検出されず、SK1より北側は遺構が検出されなかつたことから集落の中心は東側に広がると思われる。正保二年『越後国絵図』をみると調査対象地周辺は大月潟があると描かれており、石田遺跡は大月潟の縁辺に位置した集落である可能性がある。今後の周辺地区的調査事例と合わせて検討したい。

2 遺物について

出土した遺物は少量であり、古代の土器を主体に土師器、須恵器、中世の土師質土器が出土した。遺構からの出土はわずかであり、ほとんどが遺構外からの出土である。遺物が出土した遺構はSD1、2、4、5、10、遺構外はA1-9、10 グリッド周辺の出土が多い。遺構内の出土遺物はすべて古代の土器である。

土師器については煮炊き具である長甕が主な出土であり、食膳具はわずかである。長甕は体部上部カキメ、体部下部タタキで成形されているものが多い。また須恵器無台杯は、胎土分類C1群のものが多く、遺物の時期は8世紀中ごろ～9世紀初頭ごろと思われる。今回の調査では小泊産須恵器は出土していない。

中世の土器は土師質土器が2点出土した。いずれも皿であり、内1点は内外面が磨耗しており調整等は不明だが、もう1点は手づくね成形と思われる。時期は14世紀代と思われる。今回の調査区では古代を主体とした遺跡であるが、周辺に中世の集落があるものと考えられる。

引用・参考文献

- 荒川隆史^{注15} 2004 『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡発掘調査報告書』 加茂市文化財調査報告 (14) 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2011 『荒又遺跡 大田遺跡』加茂市文化財調査報告 (21) 加茂市教育委員会
- 春日真実^{注16} 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係についてー「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心にしてー」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 金子拓男 1983 『蒲原郡の古代』『三条市史』上巻 三条市
- 金子正典・田村浩司 1997 『来迎寺遺跡』三条市文化財調査報告書第8号 三条市教育委員会
- 田中恵津子^{注17} 2006 『西吉津川遺跡 白山B遺跡 路敷遺跡』三条市文化財調査報告書第15号 三条市教育委員会
- 田村浩司^{注18} 2008a 『新川田遺跡』三条市文化財調査報告書第22号 三条市教育委員会
- 田村浩司^{注18} 2008b 『藤ノ木遺跡』三条市文化財調査報告書第24号 三条市教育委員会

遺構・遺物観察表

遺構観察表 土坑(SK)

遺構番号	回版	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	方位	出土遺物	備考
SK1	1・6	IB-4	1.05	0.85	0.34	楕円形	台形状	N-62°-W		
SK2	1・6・7	IB-4	0.85	0.23	0.1	楕円形	弧状	N-74°-W		SD2, 7を切る
SK3	1・7	IB-14・19	0.67	0.45	0.33	楕円形	半円状	(N-86°-W)		SD2, 3を切る

遺構観察表 溝(SD)

遺構番号	回版	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	方位	出土遺物	備考
SD1	2・7	IB-8・13・14	1.96	0.92	0.23	台形状	N-90°-W	土師器	
SD2	7・8	IB-18・19・21, IC-4・9・14・19・20	22	0.5	0.2	弧状	N-4°-W	須恵器 土師器	SK2に切られ、SD7, 8, 11, 12を切る SD6と同一遺構か?
SD3	7・8	IB-18・19・21, IC-4・9・14・19・20	19	0.5	0.2	弧状	N-6°-W N-29°-W		SK2に切られ、SD4, 5, 7, 8, 11, 12を切る
SD4	7・8	IB-14・19・21, IC-4・5・9・10・14・15・19・21, ID-4	16	0.3	0.1	弧状	N-10°-W N-30°-W	土師器	SD2, 3, 10C切られる SD7, 8は切っている
SD5	3・7	IB-9・14	2.1	0.3	0.03	弧状	N-26°-W	須恵器	SD3を切る
SD6	3・8	IB-9・10・24・25	0.65	0.55	0.05	弧状	N-7°-E		SD6と同一遺構か?
SD7	2・8	IC-4・9	1.15	0.4	0.09	台形状	N-86°-W		SD2, 3, 4に切られる
SD8	3	IC-12	0.41	0.45	0.06	弧状	N-26°-W		SD2, 3, 4に切られる
SD10	2	IB-14・19	1.18	0.5	0.08	弧状	N-41°-W	土師器	SD11を切る
SD11	2	IB-12	1.34	0.25	0.06	弧状	N-83°-W		
SD12	2	IB-12	1.34	0.32	0.05	弧状	N-83°-W		SD11に切られる

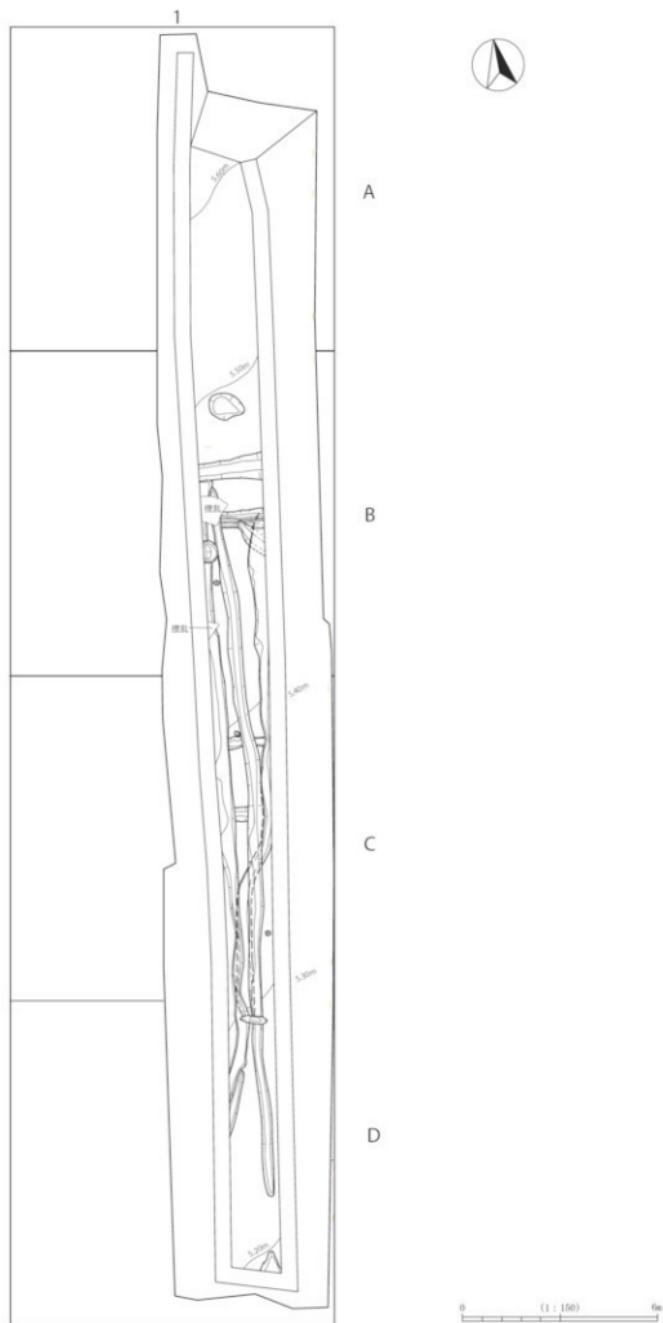
遺構観察表 ピット(P)

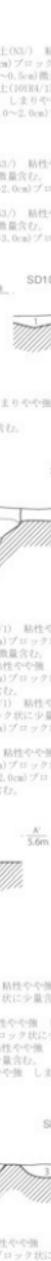
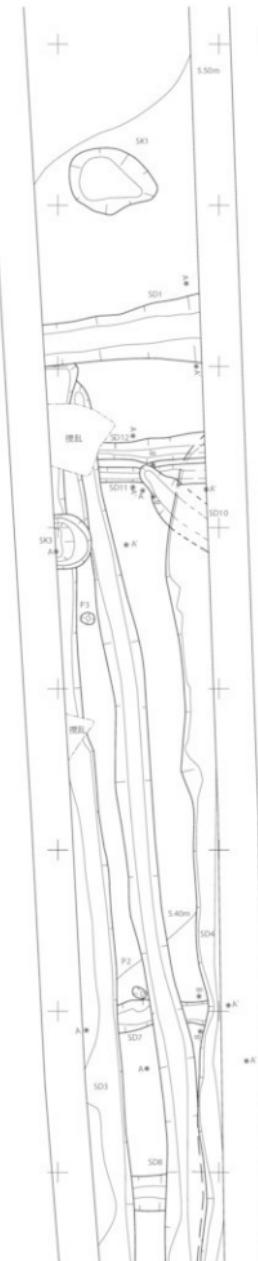
遺構番号	回版	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	方位	出土遺物	備考
P1	1	(IC-19・20・21・25)	0.17	0.15	0.17	円形	V字状	N-90°-W		
P2	1・8	IB-4	0.19	0.14	0.1	楕円形	V字状	N-44°-W		
P3	1	IB-7	0.18	0.15	0.1	円形	V字状	N-70°-W		

遺物観察表 *含有物「長」は長石粒、「石」は石英粒、「白」は白色粒、「黒」は黑色粒、「雲」は雲母

No.	工具名	工具地盤	種別	器種	大きさ (cm)	色調	加工	調整		備考	
								内面	外面		
1	SD2	ID-4	1	須恵器	無台杯	—	—	黄灰	黄灰 灰・石・雲	ロクロナヂ	直面回転ヘラ切り
2	SD5	1D-9	1	須恵器	無台杯	—	(1.0)	7.4	灰	ロクロナヂ	直面回転ヘラ切り
3	—	IC-9	IV	須恵器	無台杯	—	(1.9)	7.0	灰	ロクロナヂ	直面回転ヘラ切り
4	—	IA-19-24	IV	須恵器	無台杯	—	(0.9)	8.6	灰	ロクロナヂ	直面回転ヘラ切り
5	—	IB-4	IV	須恵器	杯	—	—	灰	灰 灰・白 灰・白	ロクロナヂ	ロクロナヂ 有台杯?
6	—	IB-4	IV	須恵器	杯蓋	13.4	(1.4)	灰	灰白 灰・白・石 磨研灰 灰・白・雲	ロクロナヂ	ロクロナヂ
7	—	IA-14	IV	須恵器	匙	—	(2.4)	10.2	灰	ロクロナヂ	ロクロナヂ 高台欠損
8	—	IA-24	IV	土師器	長甕	20.2	(2.6)	浅黄褐	浅黄褐 灰・白・雲	ロクロナヂ	ロクロナヂ
9	—	IA-23・24	IV	土師器	長甕	—	—	浅黄褐	浅黄褐 灰・白・雲	カキメ	カキメ
10	—	IA-19	IV	土師器	長甕	—	—	浅黄褐	浅黄褐 灰・白・雲	タタキ	カキメ
11	—	IA-19	IV	土師器	長甕	—	—	黑褐色	浅黄褐 灰・白・雲	タタキ	カキメ
12	—	IB-24	IV	土師質土器	甕	—	(1.1)	7	橙	ナヂ	ナヂ
13	—	IC-19	IV	土師質土器	甕	—	(1.1)	7.4	浅黄褐	ナヂ	ナヂ
14	T2	—	IV	須恵器	杯蓋	—	—	灰	灰 灰・白 灰・白	ロクロナヂ	確認調査出土
15	—	—	—	須恵器	無台杯	—	—	灰	灰 灰・白 灰・白	ロクロナヂ	分布調査出土 直面回転ヘラ切り
16	—	—	—	土師器	柄	—	—	黄褐	黄褐 灰・白	ロクロナヂ	分布調査出土
17	—	—	—	土師器	長甕	—	—	浅黄褐	浅黄褐 灰・白	ロクロナヂ	分布調査出土

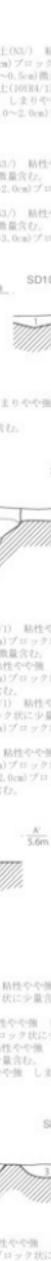
図 版





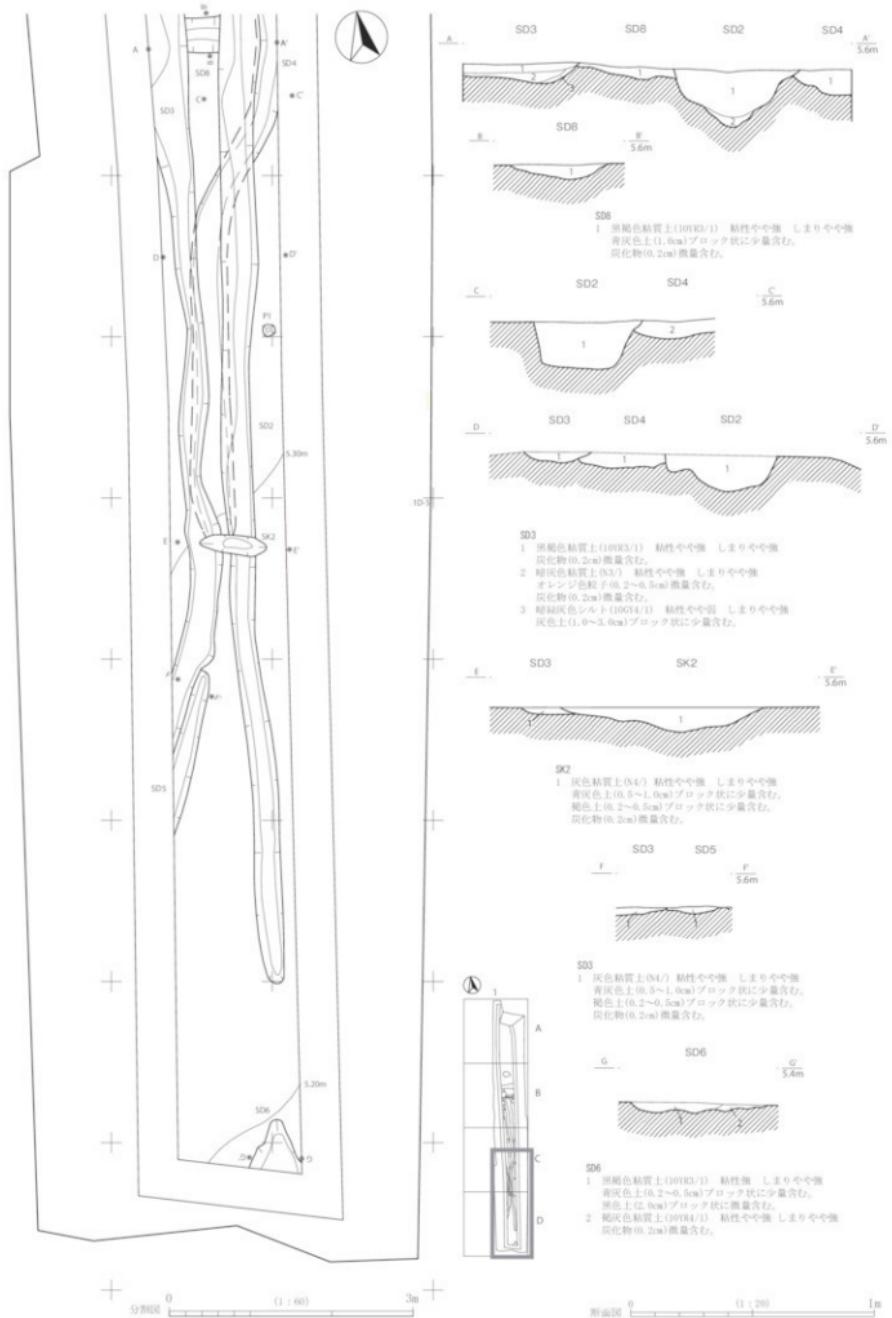
分割図 (1 : 60) 0 3m

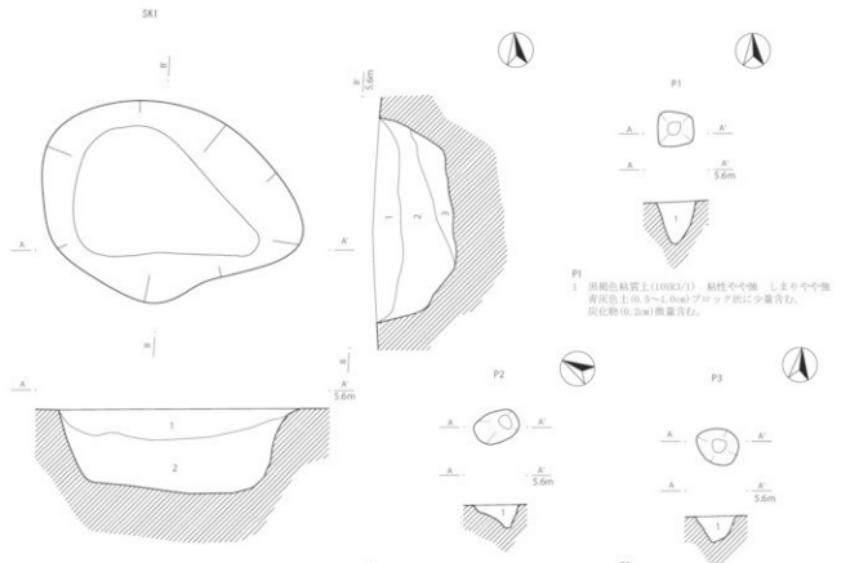
断面図 (1 : 20) 0 1m



分割図 (1 : 60) 0 3m

断面図 (1 : 20) 0 1m





P1
1 黒褐色粘質土(10033/1) 粘性やや強 しまりやや強
青灰色土(0.5~1.0cm) ブロック状に少量含む。
炭化物(0.2cm) 微量含む。

P2
1 棕褐色粘質土(53/1) 粘性やや強 しまりやや強
炭化物(0.2cm) 微量含む。

P3
1 灰色粘質土(7.5V1/1) 粘性やや強 しまりやや強
炭化物(0.2cm) 少量含む。

断面図 (1:20)
スケール 0 15cm





調査区近景（東山丘陵を望む）（北から）



調査区全景（南から）



掘削前（北から）



基本層序3（西から）



基本層序5（西から）



遺構検出状況（北から）



遺構検出状況（南から）



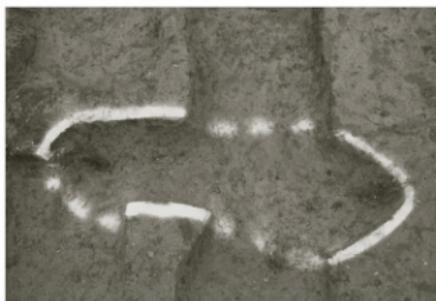
SK1 断面（南から）



SK1 実掘（南から）



SD1 + SK2 (E-E') 断面（南から）



SK2 完掘 (南から)



SK3・SD2 断面 (南から)



SD1 断面 (東から)



SD1 完掘 (西から)



SD2・SD4 断面 (南から)



SD3・SD6・SD2・SD4 断面 (南から)



SD3・SD5 断面 (南西から)



SD2・SD3・SD4 完掘 (南から)



SD2・SD3・SD4 完掘（北から）



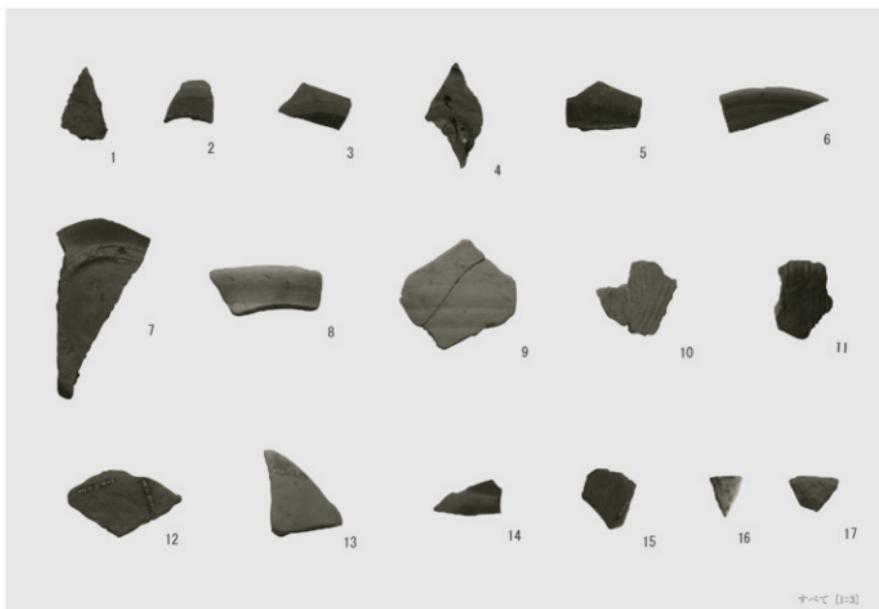
SD6 断面（北から）



SD6 完掘（北から）



SD7・P2 完掘（西から）



すべて [1:3]

報告書抄録

ふりがな	いしだいせき						
書名	石田遺跡						
副書名	市道下谷地柳場新田線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	三条市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	宮田 志保						
編集機関	三条市市民部生涯学習課						
所在地	〒955-0072 新潟県三条市元町13番1号 TEL 0256 (47) 0048						
発行年月日	西暦2015年(平成27) 3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いしだいせき 石田遺跡	新潟県三条市 下谷地 柳場 新田字 石田128番ほか	15204	367 39分 20秒	37度 59分 44秒	138度 ~20071022 ~20071031	188m ²	市道下谷地 柳場新田線 道路改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
石田遺跡	集落跡	古代 中世	土坑 3基 溝 11条 ピット 3基	須恵器、土師器、 土師質土器			

石田 遺跡

市道下谷地柳場新田線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27年3月31日 発行 発行 三条市教育委員会

編集 三条市市民部生涯学習課
〒955-0072 新潟県三条市元町13番1号
電話 0256 (47) 0048

印刷 株式会社 明間印刷所
〒955-0803 新潟県三条市月岡一丁目26番39号